

指の輪で病気を見つけ危険食品を察知する究極の測定器！

オーリング  
驚異の「ORセルフア」診断法

文=蹟見 冠 イラストレーション=古谷トシタカ

一大ブームを巻き起こした「オーリング・テスト」の原理を応用し、人間の潜在意識をキャッチする驚異の器具が「ORセルフア」だ。病気や有害食品のチェックなど、無限の可能性を詳しく紹介する！



だれもが自分の中に  
持っている神秘の力

## 未知のエネルギー「気」をとらえる

世の中でもっとも複雑で精密なメカニズムは、人間の脳であり、体であるとするのは、科学者の一致した意見である。特に140億もの細胞を持つ脳は、最先端の大型コンピュータの何百倍もの能力を持つといわれている。

このとてつもない能力を持った「脳コンピュータ」は、60兆もの細胞からなる肉体と直結している。世の中のいかなる機械装置も、こうした存在である人間の「模倣」にすぎないと指摘する人もいる。

さらに、これから人類が発明するであろうさまざまな機械装置の機能も、実は人間の脳や肉体にはすでに存在していて、単に人間がその使い方を知らなかっただけだ、といういい方をする人もいる。

そうしたいまだ知られていない人間の能力のひとつに、「気のエネルギー」があげられるだろう。

「気」というと、以前はオカルト的なとらえ方をする人や、あるいは眉唾ものように思われていた

部分もあった。

しかし、テレビや雑誌で「気」や「気功師」が取り上げられ、広く紹介されるようになった現在では、確かに存在する不思議なエネルギー、という認識に変わってきたようである。

なぜ、ここで気のエネルギーを取り上げたかという点、これから紹介する画期的な発明品「OR（オリーング）セルフア」が、気のエネルギーと密接に関係しているからだ。

ORセルフアは、人間の隠れた力を読みとり利用する優れた手段である。あともまた説明するが、ORセルフアを使うと、たとえば自分では気づかない体の不調、あるいはガンをはじめとする病気の有無、さらには健康に害を与える食べ物、飲み物などが即座にわかる。このORセルフアの基盤となっているのが、気のエネルギーなのである。

さて、話を元に戻そう。筆者も

「医療気功師」になる前までは、気というものをまったく信じていなかった。目に見えず匂いもなく手で触ることのできない気など、世の中には存在しないと思っていたのだ。

ところが、実際に気を目で確認できることがわかり、そして、その気の強さをとらえることができるようになる、これはもう信じざるをえなくなった。

しまいは、外気功（外部に気を放射する気功法）で、治療対象の人の体を自由に動かすなど、日

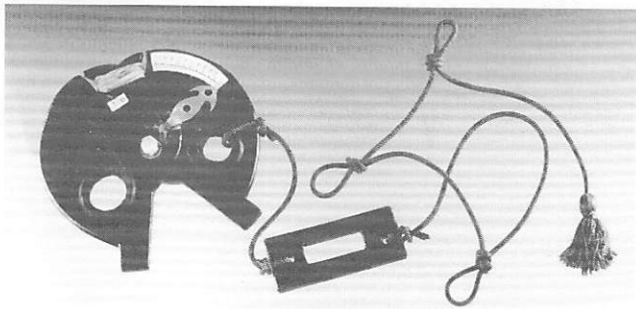
## 気を使って人を動かした不思議な体験

目にも見えず匂いもないが、ときに意思を持つつかのような気のエネルギーの不思議な作用について、少し触れてみたいと思う。

筆者が、気に興味を持ち、気の錬成道場に通っていたときのことである。数十人の受講生がいて、半分ずつ気功師役と患者役に分かれて気の訓練をしていた。

図①のように、患者役の人に対して筆者が両手で気を送っている

■筆者が作ったORセルフア。だれでも簡単に作ることができる。

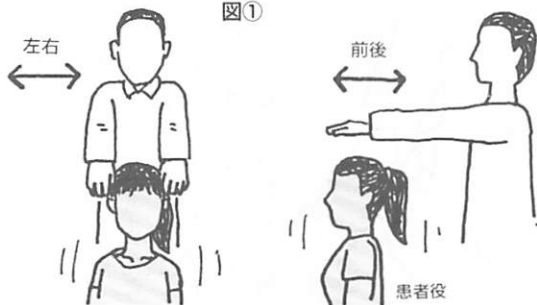


常に気をとらえられるようになっていたのである。

とき、患者の体が前後に揺れるように思いながら両手を動かすと、なんとそのとおりに動くのだ。

そんなバカなことがあるものかと思ひ、今度は両手の動きを左右に変更して気を送ってみた。すると2、3秒後には、心に思ったとおり、患者が左右に動くではないか！ それならと、今度は右回りに手の動きを変えてみたが、結果は同じだった。

図①



気の送伝方法は、各人、思い思いの形でやっていた。背中に当てる人、頭に照射する人、バラバラである。

それにしてもなぜ、うしろに立つて気を送っている人の意思が伝わるのだろうか？

筆者が患者役のときの感覚は、たとえば、頭の芯あたりに糸がついていて、その糸が頭を右に左に引くような感覚が伝わってきたのだ。それは決して苦痛ではなく、むしろフワフワしていて、とても気持ちがいいものだった。

「今度は左右に動かす」と頭で理解したわけではないのだが、糸で引かれる感じが頭の中でして、ひ

とりに動いているのである。

気功師役の場合はどうかというと、決して糸で引つっぽる想定をしているわけではない。両手を左右に動かしながら、「左右に揺れなさい」と心で思っただけで、気を送っているだけだ。

こういう体験を重ねてくると、気のエネルギーを通して「意思情報」が伝わるのと同じようなようになる。どうしても、そういう結

## ORセルフアで潜在意識を知る

気のエネルギーを媒介とした場合、潜在意識とダイレクトにコンタクトしやすいとみて、たとえば、のちほど紹介するが、密閉容器の中の液体が体に有害なのか、有益なのかかわかってしまったりもする。

それを探知するのは潜在意識であり、顕在意識ではない。潜在意識が気のエネルギーを媒介として察知するので。

論にたどり着くのである。

気を送る側も受ける側も、自分が現在、意識している自分以外に、さらに別の自分が存在しているようなのだ。自分では意識できないが、きわめて広範囲で鋭い能力が見え隠れしながら、意識できる自分をバックアップしているような実感を受けるのである。

これが、いわゆる潜在意識の現れではないのだろうか。

ORセルフアは、こうした気のエネルギーを検出する器具であり、潜在意識がわかつている答えを外に出すときの窓口の働きを担っているといえる。

顕在意識の能力の数倍とも数十倍ともいわれる潜在意識こそ、人間コンピュータそのものなのだ。そして、コンピュータと会話するのにCRT（端末のディスプレイ）を伸介するように、人間コン

ピューターの場合は、気のエネルギーを媒介とし、その気のエネルギーに敏感に反応するORセルフアを用いる。

つまり、ORセルフアを使うということは、超高性能の大型コンピュータを手に入れたのと同じだといっても過言ではない。

今までは、長年、瞑想修行をして、きわめて稀に啓示を受けたりしていた。ところが同じことが、ORセルフアという器具で容易に実現できるのである。

このORセルフアは、だれでも簡単に作るができる。もちろん、世界中のどこでも発売されてはいない。この奇跡の器具の作り方については、のちほど詳しく公開しよう。

次の章では、ORセルフアの原理となっている「オーリング・テスト」について考えてみたい。その考え、機能の原理をぜひとも知っておいてほしいからだ。



# 人間の可能性を無限に 広げるオーリングの秘密

## 健康な人の指の輪はなかなか開かない

図②を見てほしい。右手の親指と人差し指が、O字に輪をつくっている。これが「オーリング」である。この輪に対して、別の人が両手を使って指の輪を左右に開こうとしている。



図②

が前提となっていて、指の輪は、体の状態が正常な場合、そう簡単には開かない。

## 体の内部の異常を察知する筋肉

図④は、左の膝に異常がある(膝に傷があり痛みもある)女性のケースである。

左腕を水平に上げている状態で腕のA印のところを、別の人が押し下げるとしよう。女性には腕が下がらないように、少しつづつでもらう。

このとき、腕を押し下げる人が全力をこめ、女性のほうも必死に力を入れる、といった状態ではな



図③

ところが、図③は、開かれる側の体に異常が生じたとき、普通であれば開かないはずの指が、開いてしまうところを示している。なぜ、こういうことが起きるのか、説明してみよう。

いことに注意。押し下げる人は普通の常識的な強さで下げ、女性のほうも普通の力で腕を支えておく。こうした相互の力関係になることが前提だ。

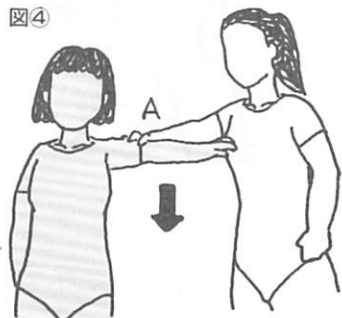
そういう力関係のもとでは、腕を押し下げても簡単に下がることはない。ところが、左



図⑤

図④で、脳から太い矢印が全身に流れている。これは、現在の筋肉の状態を維持しようとする信号が、脳から全身に流れている様子を表している。

ところが、膝の傷のところを刺激を与えると、その刺激が点線のような経路で、脳へ伝えられる。そうすると、水平の腕を保とうと指を出していた脳からの信号が弱まり、簡単に腕が下がってしまうのである。



図④

このようにして、腕の押し下げに抵抗する力をテストして、体の異常を診断する方法は「アブライ

## 指こそが精密な脳の最高の代弁者

しかし、こうした診断方法には欠点がある。人間の腕の筋肉は疲れやすく、何回も診断していくうちに、正確な診断ができなくなってくるのだ。

そこで考えられたのが「指」の筋肉である。ここに注目したのはアメリカ在住の日本人医師、大村恵昭博士である。

指は体のなかでもっとも敏感で、しかも一日中動かしていても、疲れて筋力が落ちるといふことがほとんどない。そうした指の特徴に注目して、博士は「バイ・ディジタル・オーリング・テスト」という診断方法を考案したのだ。これが「オーリング・テスト」の正式な名称である。

人体構造のなかで、手の指と口の筋肉は、もっとも疲れにくいといわれている。一生のうちには数えきれないほどの屈伸を繰り返すのだから、いちいち疲れては話にならない。

しかも指は、大脳というコンピュータのもっともすぐれた端末だから、コンピュータの出力を敏感に映しだしてくれる。「手は外部の脳」といわれるゆえんである。

ド・キネシオロジー」診断法として、鍼灸治療の分野では広く知られたものである。

さて、腕の押し下げで体の異常を診断する「アブライド・キネシオロジー」診断法のなかの、腕が下がらない状態が、オーリングの指が開かない状態にあたる。一方腕が下がる状態は、指が開く状態にあたる。

つまり、体の異常な場所に刺激が与えられると、脳コンピュータから正常時とは違う信号が出て

きて、指を開くまいとする信号が弱まり、自然に指が開いてしまうのだ。

刺激を与えるには、患部を指で触る方法がとられる。

これが基本的なオーリング・テストのやり方、考え方である。

ちなみに「アブライド・キネシオロジー」診断法は、アメリカのジョージ・グッドハート博士が創始者とされている。

グッドハート博士は、

「大きな筋肉のひとつひとつが、特定の身体の器官と関連している

## オーリング・テストの無限の可能性

お金もいらない、体への害もない、そして自分の体の状態を的確に知ることができる——そんな夢のような診断方法が、オーリング・テストなのだ。

さらにこのオーリング・テストは、体の状態を知るだけでなく、「気のエネルギー」を媒体とすることによって、さまざまな分野へと利用価値を拡大している。

たとえば、目の前の食物が自分にとって有害なものなのか、無害なものなのかを判断することもできるし、毎日飲む水をよりおいしくすることもできるようになる。最近では、自分の気のエネルギーを強化したり、人との相性を見たりする人も出てきているようだ。

事実を発見した。つまり、ある筋肉が弱くなっていると、関連する器官のエネルギー水準に問題が生じてくる。」

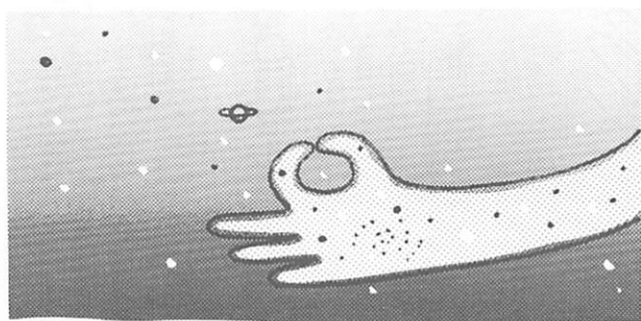
といつている。体のあらゆる器官は、筋肉と密接に関連しているというのである。

ORセルフアを使って、自分の体のさまざまなポイントを測ってみると、人体の神秘的なメカニズムを知ることができる。そのヒントを与えてくださった博士の研究と尽力には、感謝しないではいられない。

こうした多岐にわたる活用法が続々と出てきており、オーリング・テストは、いまや無限の可能性を秘めたものになりつつある。そして、それは同時に、新しい自分との出会いともなりうるのである。

多くの人が、このオーリング・テストを日常生活のなかで使っていけば、新しい文化をも創造できるだろう。ところが、残念なことにも、その有効性を認められながらも、このテストはなかなか普及していないのが実情である。

原因としていくつかが考えられるが、実はORセルフアはその眼界に挑み、見事にクリアした器具なのである。その秘密はどこにあるのだろうか……。



# 画期的なオリジナル器具 「ORセルフア」の発明!

## 客観的な測定ができるORセルフア

さて、いよいよORセルフアの登場だ。図⑥を見てほしい。これがORセルフアである。

これは、自分の指の輪を他人に開いてもらわなくても、自分ひと

りでオーリング・テストができるシステムである。この器具の作り方は第6章で詳しく紹介するとして、ここでは器具の仕組みについて簡単に話しておこう。

器具は2つの作動板からできている。それぞれの板には穴が開いているが、その2つの穴に左手の人差し指と親指を入れる。

そして、輪になるように力を入れると、作動板のV字の切りこみが閉じ、固定具（ORセルフアが開くのを留めている器具）で、作動板が閉じたまま固定される。これは、指の輪に外力が加わっていない状態である（A）。

その状態で、右手の人差し指につながついているひもを引くと、固

ひもを引くと、固

さらに、従来のオーリング・テストは、必ずだれかに手伝ってもらわなければできなかった。両手で指の輪を開くわけだから当然である。

しかも、どこか体の悪い部分をチェックするには、患者のもう一方の手で触るしかない。その手も使えるのは、足とかおなか、顔など、おもに体の前面部分に限られてしまう。

たとえば、腎臓を診断するには

定具がはずれて、器具が作動する仕組みになっている。つまり、作動板の端にセットされた輪ゴムが、ふたつの作動板を引いて、指の輪を開こうとするのだ（B）。

人間が開こうとする場合、開く人の体調の良し悪しで力が違ったり、あるいは開く人が違えばその力も異なるなど、なかなか一定の力を加えることができない。

その点、輪ゴムは、常に一定の力で指の輪を開こうとするので、人間が開くよりも安定した力を加えることができる。

オーリング・テストというと、両者の力加減がむずかしいため、客観性に欠ける、と思っていた人は多いだろう。しかし、このORセルフアの仕組みなら、納得してくれるにちがいない。

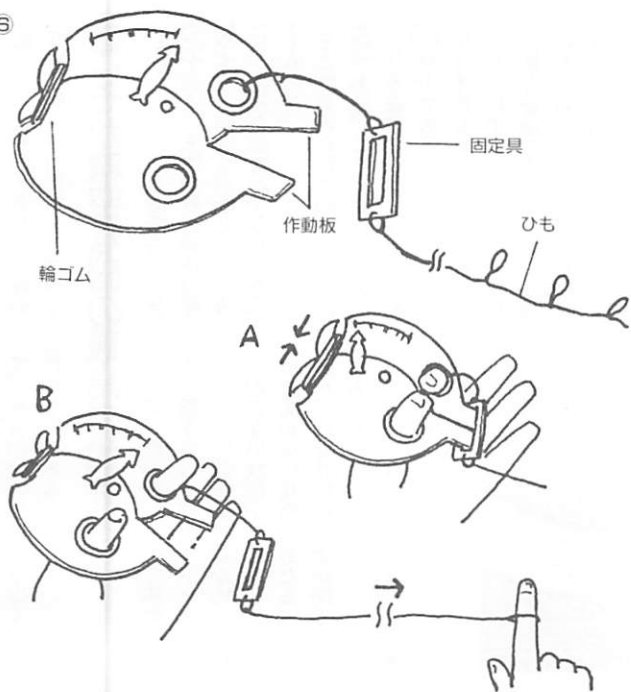
## ひもを引くと、固

さらに、従来のオーリング・テストは、必ずだれかに手伝ってもらわなければできなかった。両手で指の輪を開くわけだから当然である。

しかも、どこか体の悪い部分をチェックするには、患者のもう一方の手で触るしかない。その手も使えるのは、足とかおなか、顔など、おもに体の前面部分に限られてしまう。

たとえば、腎臓を診断するには、家族と一緒に生活している人でも、

図⑥



いちいち手助けを必要としていては、長く続けることは不可能になつてくるはずである。ただでさえ忙しい現代人だ。それほど時間に余裕がある人はいないだろう。

そうした限界を打ち破ったのが、

## 自由に使える右手の使い方がポイント

さて、左手にORセルフアを持つち、右手でひもを引くと、器具は作動する。その場合、体の測りたポイントで、だれが、いつ刺激したらいいのだろうか。ORセルフアはひとりで自分の体を測れるといったが、両手がふさがっている状態で、どうやって測つたらいいのだろうか。

セット時（固定された状態をこのように呼ぶ）から、器具を作動させるには、右手につながつているひもを引いて固定具を外す。この瞬間、固定具が外れてゴムの力が働き、作動板が指の輪を広げようとするわけだ。

一方、ひもの輪を通した右手の指は自由に動くわけだから、この右手を使って測りたい体の部分を

もちろん、診断結果もきわめて簡単にわかる。

図⑧Aを見てほしい。ORセルフアをセットした状態である。セット時には、ゲージ（目盛り）は

ORセルフアなのだ。この小さな器具さえ持っていれば、独身者であらうと忙しいサラリーマンであらうと、いつでもどこでもオーリング・テストが実施できるのである。

刺激するのである。

たとえば、右足の膝を測ろうとする場合は、図⑦のようなやり方が考えられる。

ひもを通した右手の人差し指で膝を触るだけで刺激になり、そのままひもを引くことによりORセルフアが作動。きわめて単純な仕組みである。

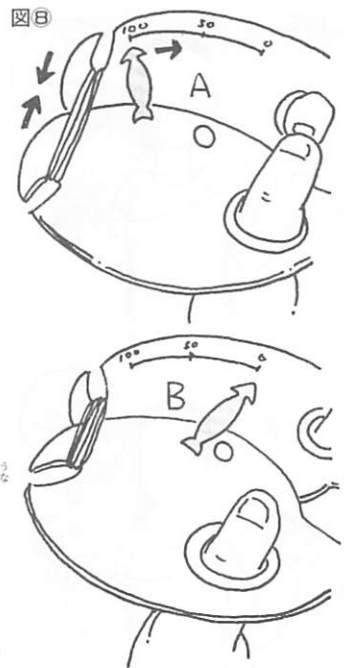


図⑦

## ORセルフアの診断法は単純明快！

100パーセントを指している。

一方、器具が作動した状態で指の力を抜いていくと、指針が一時的に止まるポイントがある。そのとき、指にはほとんど力が入って



図⑧  
いない。そのポイントで、ゲージが0パーセントを指すようになっている（B）。

つまり、オーリングをつくる指の力が弱くなるほど、ゲージは低い値を指すわけだ。

もし体の表層の悪い部分、あるいは異常のある内臓と近接した体の部分に触ると、オーリングは正常な部分に触ったときよりも開いてしまう。O字を保とうとする脳信号が、異常部位の刺激信号にじやまされるという、前述の原理を思いだしてほしい。

当然、指の力は弱まり、ゲージの値が低くなる。その値が低ければ低いほど、触った部分の調子が悪いということになる。

本当にそうなるのか、疑問に思う人も多いだろうが、ORセルフアを作ってから実験してみると、その正確さに自分でも驚くような結果になるだろう。そのときはじめて、このORセルフアのすごさ

に、思わず唖（あ）ってしまうあなたがいるはずだ。

ところで、ORセルフアが作動する原動力は輪ゴムにある。一定の力を保たせたいなら、金属バネでもいいのではないが、という人がいるかもしれない。

しかし、人体から発する「気」の異常をとらえるオーリング・テストの原理で作動するORセルフアは、きわめて微妙なエネルギーを対象とするので、その材料には金属を使用しない。

金属が人間の気に影響を与え、正確な測定ができなくなるからだ。金属を使うと、気の測定に誤差を生じる可能性が高いのである。

ORセルフアのゴムの強さや詳しい調整のしかたは、第6章の作り方で説明したい。

いずれにしても、シンプルなメカニズムだからこそ、簡単に自分で作れるORセルフアは、実に身近な器具なのである。

# まるで超能力！ 病気や有害物質を探知する！

## 自覚症状がなくても体の異常を発見!?

日本人の死因の第1位がガンであることは、周知のとおりだ。また、ガンで死にいたらなくても、ほかの病気で亡くなった人を解剖してみると、ガンが発見されることと珍しくない。ガン細胞は人間と共存している、といわれるゆえ

んである。

ガンの早期発見の重要性が叫ばれるようになってから、定期健康診断のときには、胃透視検査が実施されるようになった。

しかし、これで安心だと思っていると、とんでもない。透視検査などによる健康診断で胃ガンが発見されたときには、もうすでにかなりガンが進行していた、というのによく聞く話だ。

ましてや、胃や肺以外の健康診断は、普通は実施しないから、体の異常に気づいたときには、病状が相当進んでいることが多いのである。その時点では、すでに手遅れになってしまう場合もある。世界の医療先進国でも、こうした状況は同じなのだ。

自覚症状が出てはじめて気づく前に、こうした異常を発見する方法がないのか――。

そう、その可能性を持つものがORセルファなのだ。体にはまだなんの自覚症状がな

くても、ORセルファが、見事に体の異常を教えてくれるケースが多々あるのだ。

健康でなんの異常もないと思っ  
ているときでも、もし、ORセル  
ファに変化があれば、すばやく専  
門医に相談することができると、  
健康診断との併用によって、日常  
の健康管理をより万全にすること

## 体に悪い物さえもすぐに見つけてしまう

さて、ORセルファは、こうした体の異常を察知するだけではない。なんと物質と自分の体の相性というか、その物質は自分にとつて有害なのか無害なのか、あるいは有益なのか、ということまで知

ができるのだ。  
人間の体を流れる無数の「気」は、人間の表層意識ではとらえられない小さな異常でも感知し、その流れに異常が生じさせる。  
逆にいえば、気の流れが異常であるということは、なにかしらの異常が体の中にあるということになる。

ORセルファは、その気をとらえることができる器具だから、体のわずかな異常でも発見する可能性があるのだ。

ORセルファは、現代医学を補完する有効な器具となりえるのである。

ることができるのである。

具体的にいうと、右手の指で体のポイントに触るかわりに、右の手に「測りたい物」を持って、ORセルファを作動させるのだ。たったこれだけで、その物質と

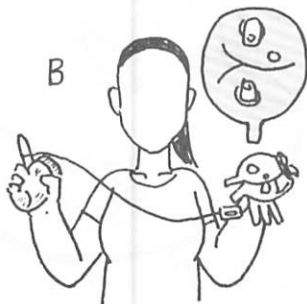


図9

A

B





自分の関係を知ることができるのである。

どうしてこんなことで、物質と自分の相性を知ることができるのか？ 疑問に思う人も多いだろう。もつともな疑問だが、ORセルファを作ったあとで、次のような実験をしてみよう。

まず、右手には何も持たないで、図⑨Aのような格好で測ってみる。これを「空打ち」(何も測定しない状態、右手はどこにもタッチしていない状態)という。

次に、体に有害な物質、なんでもいいのだが、たとえば灯油が入ったビン、お菓子の袋に入っている乾燥剤などを右手に持ち、ORセルファを作動させてみる(B)。すると、何も持たずにORセルファを作動させたときと比べて、指が大きく開いてしまうはずだ。つまり、ゲージの値が低くなるはずである。その値が低ければ低いほど、その物質はあなたにとって有害ということになる。

だれにとっても有害な物質は、当然、ゲージの値が低くなるが、なかには、ほかの人はそんなことはないのに自分にはどうしても合わない、という物質もある。

たとえば、お酒を少しでも飲むと具合が悪くなる、サバを食べるとジンマシンができる、という人がいると思うが、そうした人がお

酒やサバを手を持って、ORセルファを作動させると、見事に目盛りが低くなる。

筆者は何度もそういうことを体験してきた。驚くべき正確さで結

## 有害な食品添加物も検知できる

現代人が避けては通れないものに、有害な食品添加物がある。

ほとんどの食品に添加物が混入されているわけで、今はやりの自然食品を多用したとしても、いつさいの添加物を体の中に入れないというのは、もはや現代社会では不可能なことではないだろうか。しかも、その添加物がどんな影響を人体に及ぼすかは、専門家で

果が出るのだ。これはもちろん、潜在意識が、気というエネルギーを通して感知しているのだ。まさに不思議なのは人間の潜在意識であり、潜在能力である。

## も詳しく計算することはできない


だが、せめて自分にとってどれが有害なのか、どのくらい有害なのか、といったことは知りたいものだ。ORセルファは、そういうときの手助けにもなる。

その意味でORセルファは、現代の食品添加物社会では、貴重な健康サポーターとなるはずである。しかも、詳しい成分分析とか、含有量などの専門知識がなくても、自分の体がひとりですべて拒否反応を示してくれるのが嬉しい点だ。

また、病院でもらう薬についても、素人のわれわれは、その薬が自分にとって副作用の強いものか、そうでないのか判断できないのが実状だ。しかし、少なくともORセルファを使うことで、薬を変えてもらうなどの判断の基準とすることもできる。

いずれにしても、ありとあらゆる有害物質が体に取り入れられてしまう現代において、自主的にその取捨選択ができるORセルファは、画期的な発明といえるだろう。



 考える人に Gokken

# 勉強が好きになるように、洗脳されたい。

—— 17才 男子高校生 ——

## 中高生の“生活”チャンネル

【7月号】

高校合格へのパワーアップマガジン

高校三年コース	6月9日発売 定価630円(税込)
高校二年コース	6月9日発売 定価620円(税込)
高校一年コース	6月9日発売 定価600円(税込)

大学受験コース

大学受験コース	6月14日発売 定価750円(税込)
---------	--------------------

高専コース

高専コース	6月14日発売 定価720円(税込)
-------	--------------------

読者がつくるニュー受検誌

中主のおおしる屋立ちマガジン

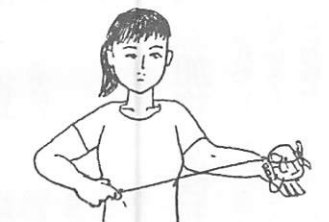
# ORセルフアを使った 基本的な測定テクニク

## 測定するときは気持ち正常な状態で

ORセルフアの概要がわかったところで、実際の測定法のポイントを話していこう。

無限の潜在能力を持った人間だが、優秀さゆえの欠点もまた存在している。60兆個の細胞という部品から成り、あまりにも高性能な脳コンピューターを持つ人間という精密機械は、その日の体調によって測定値にバラツキが出てしまうのである。

大きなアクシデントのあった直後や気持ちが悪く揺れているときは、ORセルフアの測定には不向きなので、避けるようにしてほしい。



## 余分な力を抜いてリラックスする

さて、ORセルフアで測定する際の注意点だが、まずいちばん大事なことは、自然体で測定するということである。

図10のように、両肩をいからせて勢いこんで測定すると、体も心も緊張してしまうため、異常な測定結果が出てしまうことが多い。図11のように、もっと自然体のり

ゆえの誤差なのである。まず最初に、これをよく頭に入れておいてほしい。ここでは、できるだけ正確な測定をし、正確な測定値を得るためのORセルフアの測り方について考えてみよう。

リラックスした状態で測定してほしい。子供が遊びのつもりでやっているくらいがちょうどいいようだ。また、図12のような不自然な姿勢も禁物である。

緊張しすぎて体に力が入りすぎたり、姿勢が悪かったりすると、なぜ正しい測定ができないのだろうか？

前出のグッドハート博士の言葉を思いだしてほしい。博士は「筋肉のひとつひとつが、特定の身体の器官と関連している」と報告している。

つまり、姿勢が正しくなかったり、余分な力が入って筋肉が緊張すると、触れている筋肉と関連している器官を測定するはずが、緊張している筋肉と関連している器官を測ってしまうわけである。そうすると、実際はどこを測定しているのか、わからなくなってしまうことになる。

このように、自分が測りたい体の部分や物を正しく測るには、筋肉の余分な力を取り去って、リラックスした状態で測ることが大事になるわけだ。

もちろん、そうはいっても、筋肉をまったく使わないわけにはいかない。そこで、もっとも影響の少ない姿勢は、どういったものかということになる。

が、それは、各個人でかなり差があると思われるので、基本的には各人が経験を積みながら搜したすしかなないのである。

立ったまま、椅子に座る、正座する、寝ころがる……、いろんな姿勢を試してみても、自分に合った姿勢を搜したすのだ。

その際は、次の2つの注意点をクリアできるように心がけてお

- てほしい。
- ①安定したくつろぎの姿勢を保つ。
  - ②常に一定の姿勢で測定するクセをつける。

## 測定方法の基本パターン

さて、以上のような注意点を頭に入れておいて、ここで、ORセルファの一連の動きをまとめておこう。

①両手は、互いに20〜30センチ以上離す。

そして、体を測定するときは、ORセルファを持った左手を、体から20〜30センチ以上離すこと。

物を測るときも、両手を体から20〜30センチ以上離すようにする。近すぎると、体の気の影響を受けてしまうからだ。

②ORセルファは左手で持ち（左手の親指と人差し指をORセルフ

初めてでも上手にできる人もいるが、やはり5回、10回と試していくなかで、要領をつかむしかないだろう。

アの穴に入れ、セットする。

③右手は、人差し指を引きひもの輪に入れ、患部（または測定物）にタッチする。

④右手のひもを引いて、左手のORセルファの固定具をはずす。

⑤その瞬間、ORセルファの作動板が、輪ゴムの力で押し広げられる。左手指のオーリングは、この動きに抵抗し、一定のところで力が均衡してストップする。

以上が、一連の動きである。ところで、引きひもには、固定具から測って、30センチ、40センチ、50センチの3箇所、指を入

れる輪が作られている。

これは、ORセルファで体の各所を測ってみるとわかるのだが、ひとつだけだと距離が短すぎたり長すぎたりして、うまく測ることができないからだ。体の各部位に合った指差し輪を使うようにする

といだろう。なお、図13に、ORセルファを使う場合の測定ポイントの例を示しておいた。体のどの部位に触ればいいのか、図を参考にしながら、ぜひ自分でもやってみてほしいものである。

## 正常時のゲージ値は70〜80パーセント

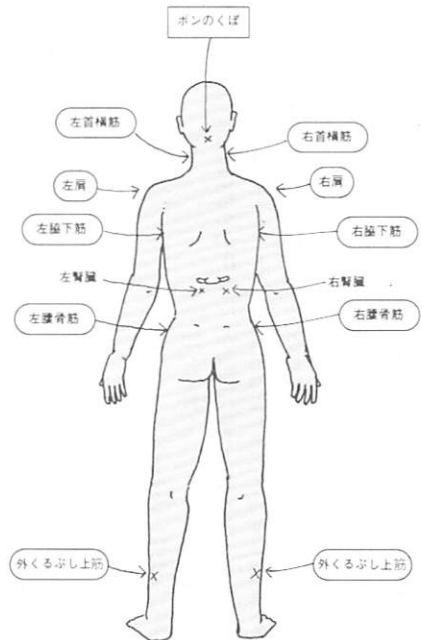
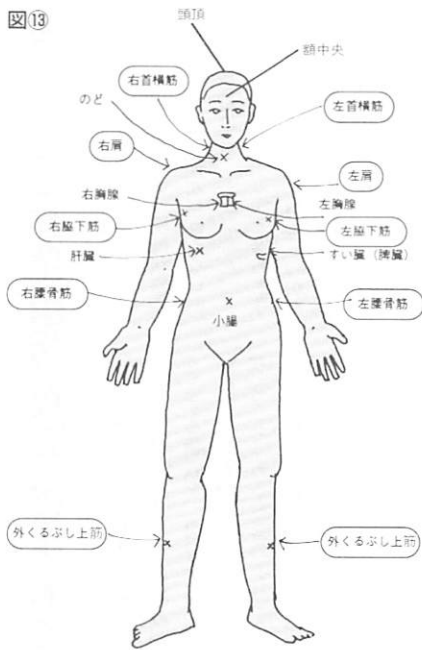
ORセルファが作動したら、ゲージの値を確認する。ORセルファが開いてしまつて、ゲージの値が低くなればなるほど、その部位は調子が悪く、「気」の流れが滞っていることになる。

体の悪い部分に触っていない空打ちでは、ORセルファの目盛りは、70〜80パーセントを指すのが普通である。したがって、それよりかなり低い数値が出たら、なんらかの異常を疑ってみるべきだ。

もちろん数値には、人間コンピユーターゆえのバラツキがともなう。できれば定期的に体の各所を測り、健康度をチェックできるようにしておくといだろう。

実は、そうしたデータ化の方法として非常に有効な「統合評価値」を出す手法があるのだが、紙幅の関係で割愛した。詳しくは発売中の『OR（オーリング）セルファの驚異』（学研、ムーブックス）を参照していただきたい。

図13



## 自分なりの「基準測定物質」を決めておく

ORセルファの測定では、測定値のバラツキをなるべく少なくしたい。そのためには、精神状態や体調に注意し、「測定に向かない時や日」を避けることが肝心だ。

とはいっても、これではあまりに漠然としていて、測定に向かない時・日を、もっと具体的に知る方法がないのだろうか。

実はそれがある。事前に「基準測定物質」を調べておくのだ。つまり「体によい物」「普通の物」「悪い物」を選びだし、それらの数値を何度か測定して、通常の場合の測定値をあらかじめ知っておくのである。

例を示そう。

①ビタミンC（液体）、ミネラルウォーター、トイレの洗浄剤を用意する。ほかに、それぞれを入れる図14のような容器3個。

もし、ORセルファの働きが信じられないという人は、中身が見えないように容器を適当なもので覆ってテストしてみるとよい。テストが終わったあとで、中身が何かを確認する「盲検テスト」をやってみるのだ。

その場合、各容器の重さが同じになるように中身を入れ、どの容器に何が入っているのかは、自分でわからないようにしておく。

②準備ができたならORセルファを左手にセット、右手は容器を持つ。③そして目を閉じ、これから測ろうとする物質を、自分が口に含んだらどうなるか、とイメージしてみる。手にある容器の中身をじっくりと味わうようなつもりで測定すると、非常に正確な値が得られるはずだ（気が散って、ぜんぜん違うことを考えたりすると、測定結果はいい加減なものになってしまうので要注意）。



イメージができたなら、右手のひもを引いてORセルファを 작동させる。⑤一度だけだと正しい結果にならないことも考えられるので、3回ほどやってみよう。

さて、すべての測定結果が出たところで、中身を確認する。あなたは間違いない、びっくり仰天するはずだ。

ビタミンCの容器だと、だいたい70〜80パーセントの間を指すところが、トイレの洗浄剤は55パーセント以下の数値。ミネラルウォーターは70パーセント前後か、悪くても60パーセントぐらい。

ただし、以上の数値は、各人の個性や、ゴムの強さの調整具合によって変わることがある。しかし、

### 異常信号は「意識の空白時」に現れる！

実際に測定してもらおうとわかるのだが、固定具がはずれた瞬間、

作動板は突然に作動する。突然、作動するから、指の輪がまったく

開かないことはありえない。腕相撲でも、突然、相手が力を

入れたりと、どうしても腕が倒れたりするのが同じことだ。

ただし、指が開かないことはないのだが、全開するということがまずありえない。

そして実は、こうした「瞬間の動きのなかで生まれる動き」が非

相対的に見れば、体に悪いものは低く、よいものは高く出てくる。

これはもう驚異的な確率である。こんなテストを何度か行い、自分にとっての基準測定物質の値を知っておく。こうしておけば、今

が測定に適した時かどうか、基準測定物質を使つて的確に判断できるというわけだ。

ちなみに、ビタミンCなどの有益物質が70〜80パーセントぐらいの数値を示すORセルファの場合、55パーセント以下の数値を示す物は注意しなければならぬ。

この「55」という数値は、長年、ORセルファを使つてきた筆者が「危険数値」としているものである。この数値より下を示した物質は、絶対に口にしないことだ。

常に大事なのだ。これは、ORセルファの重要な秘密でもある。

人間コンピュータの「正常・異常の判断信号は、瞬間の「意識の空白時」に素直に現れてくるもの

である。緊張して満身の力をこめるときよりも、予期していない意

識の空白時にこそ、素直なレベルの反応が出やすいのだ。

ORセルファの作動板が動いた瞬間こそ、人間コンピュータの信号が的確に表現される。黄金の時間なのである。

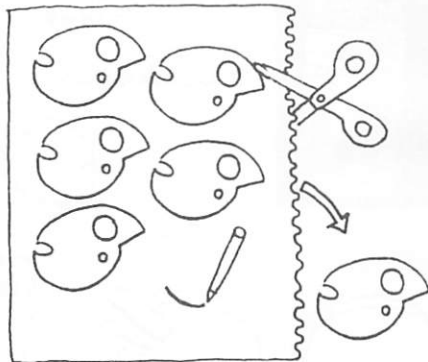
# 特許公開！ 「ORセルファ」の製作法

## 1 作動板を作る

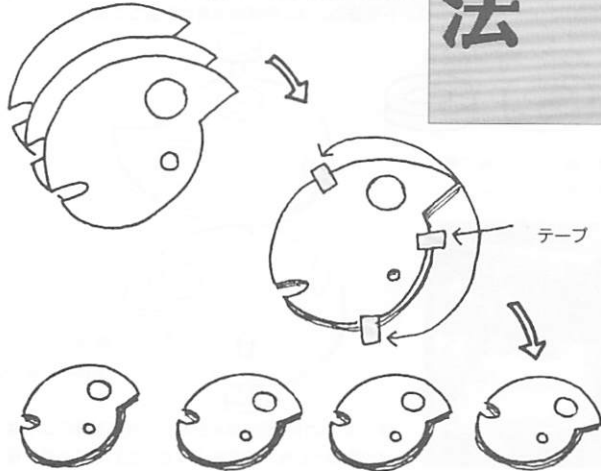
最初に作るのは、ORセルファの本体ともいえる作動板だ。軽くて入手しやすい素材ということで、ここでは紙を使った作り方を紹介しよう。

ただし、ORセルファはある程度の強度を必要とするので、ちょっととした細工が必要だ。その点だけ注意すれば、だれでも簡単に作ることができる。

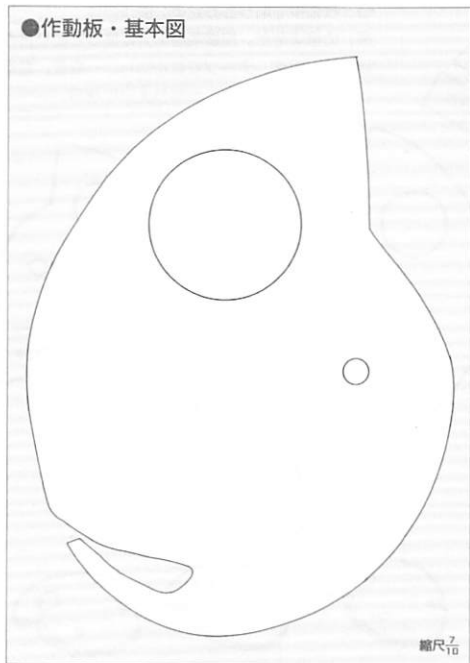
① 厚めの画用紙に作動板の型を描き、切りだす。型は全部で12枚。型を描くときは、基本図を拡大コピーし、写し取ると楽だ。



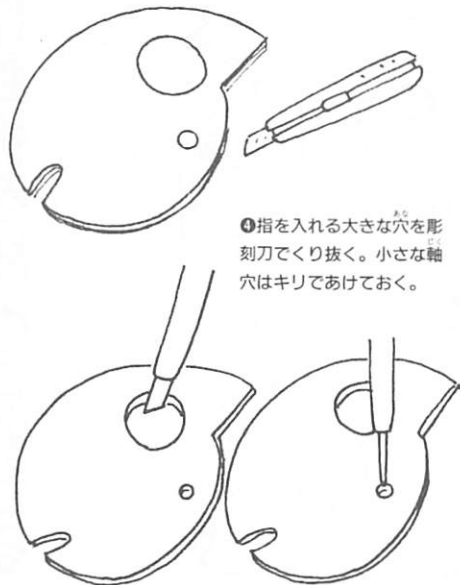
② 切り取った型を3枚ずつ重ね、テープで3箇所ぐらいを仮止めする。こうすると、合計4つの型の束ができる。



### ●作動板・基本図



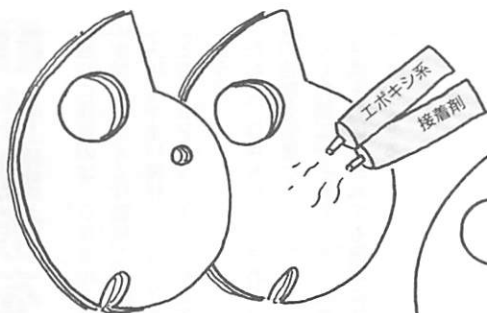
③ テープで固定した束を、カッターナイフや彫刻刀で、デコボコがなくなる程度に切りそろえる。



④ 指を入れる大きな穴を彫刻刀でくり抜く。小さな軸穴はキリであけておく。

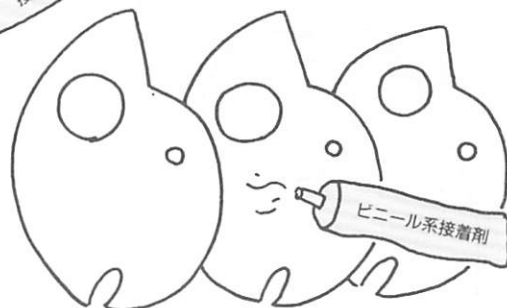


◆接着剤の種類。左からビニール系、エポキシ系、そしてゴム用瞬間接着剤。この3種類は必ず準備しておく。



③3枚貼り合わせの型が4つできたら、最後に2つずつ貼り合わせる。使うのは必ず「エポキシ系」の接着剤。A液とB液を混ぜて使用するもの。この接着剤を使うことで、プラスチックのような固い板になる。

④3枚の型を貼り合わせる。使うのは「ビニール系」の接着剤だ。接着剤を十分に塗って貼り合わせたら、再度、テープで仮止めし、一昼夜、乾燥させる。こうすると、かなり丈夫になる。



一昼夜、乾燥させる



隙間をあけない



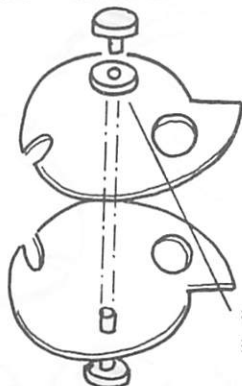
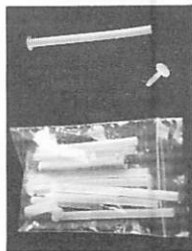
15~20ミリ

③指差し穴の補強と指の保護のために、小さく切ったゴムバンドを貼る。ゴム用瞬間接着剤を使うこと。

直径20~30ミリ×2個



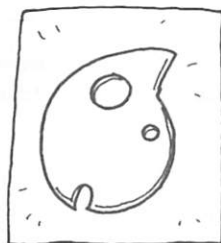
④下敷きなどで軸穴補強のためのリングを作る。



補強リングは接着剤で貼っておく

⑤いよいよ作動板の組み合わせ。左の写真のようなプラスチックの書類とじを、作動板の厚さに合わせて切り、軸穴に通す。

①最初は、作動板の化粧だ。好みの色の塗料を全面に塗ればいい。白くするなら修正液で十分。簡単に入手できるのでおすすめです。



ハケ式が便利

修正液

②乾いたところで、ビニール系接着剤をムラなく塗って、表面を強化する。乾くと美しいプラスチックのような感じに仕上がる。

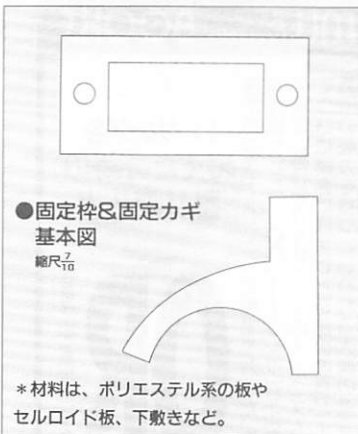


② 完成した2枚の作動板は、軸穴に適當なものを通して組み合わせる。ここではそのやり方を紹介す

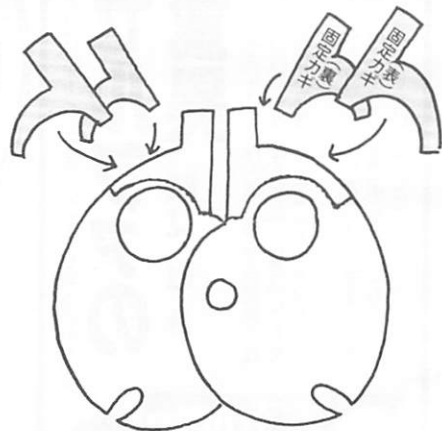
るが、前作業として、いくつかがっておくことがある。あわせて説明しよう。

## 2 作動板を組み合わせる

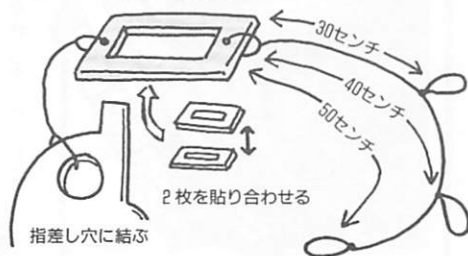
### 3 固定具を作る



①基本図の形で固定カギを4枚切りだす。そして、瞬間接着剤を使って、作動板の表と裏から二重に接着する。



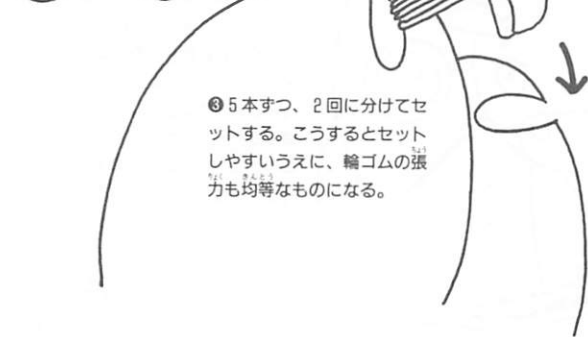
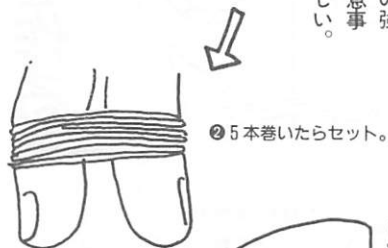
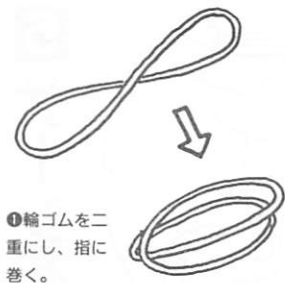
②固定枠は同じものを2枚作り、瞬間接着剤で貼り合わせる。そして、引きひもを通す穴をあける。ひもは、片方は指差し穴に結び、もう一方は、固定具から30、40、50センチの位置に輪を作る。



### 4 輪ゴムのセット・調整

ORセルファの要である作動力は、束ねた輪ゴムの力による。このセットがいい加減だと、正確な測定ができないので、注意して取りつけてほしい。

本数は、10本を基本とする。力の弱い女性は8本、かなり力の強い男性は12本が目安。下の注意事項をよく読んでセットしてほしい。



#### ●輪ゴムに関する注意事項

継続して正しい測定をするには、輪ゴムは、当然ながら常に一定の力を保っていることが必要だ。あるときは、ほかで使用しているヨレヨレの輪ゴムを取り外して使ったり、あるときは、買ったばかりの輪ゴムを使用したりするのでは、正確な測定ができない。

文房具店で一箱まとめ買いをし、継続して同じ規格品を使うようにするといいたろう。そして、2週間に1度は取り替えるようにしてほしい。

輪ゴムの使用本数の標準は10本だが、自分の指の力に応じて、本数を調整する。その目安は、体調に異常がない状態でORセルファの空打ちを行い、次ページで説明するゲージの自盛りが「100~70パーセント」を示すくらいがベストといえる。



0-リングを  
超えた奇跡の  
器具誕生!!

OR

オーリング

驚異

セルファの  
蹟見 冠 著

潜在意識に眠る無限のパワーを引き出す驚異の器具ORオーリングセルファの作り方から活用法までのすべて

画期的病理テストとして脚光を浴びた、あの「0-リング・テスト」がひとりでできる驚異の器具が誕生した！ORオーリングセルファ—だれの内にも存在する、気に着目し、数々の実験、試行錯誤を経て、そのメカニズムを解明した著者が、無数のコミュニケーションを行うついに開発に成功した奇跡の器具だ！  
無限の能力を持つといわれる人間の潜在意識—そのメッセージを引き出すところこそが、そのメカニズムにほかならない。器具の手作り法から活用法まで、本書で明らかにされるすべての要素が、あなたのはてしなく潜在能力を次々に開花させていくことになる——!!

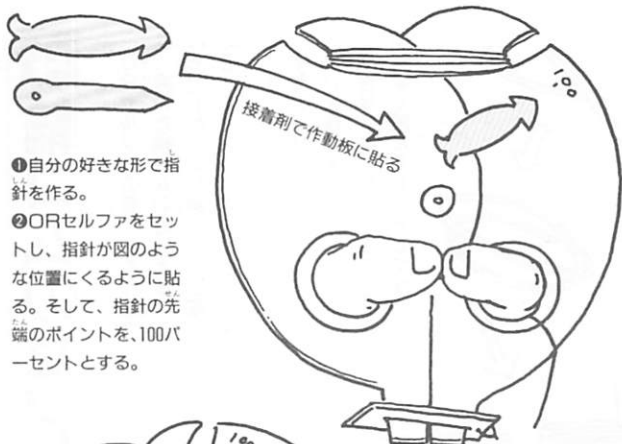


定価  
870円  
(税込)

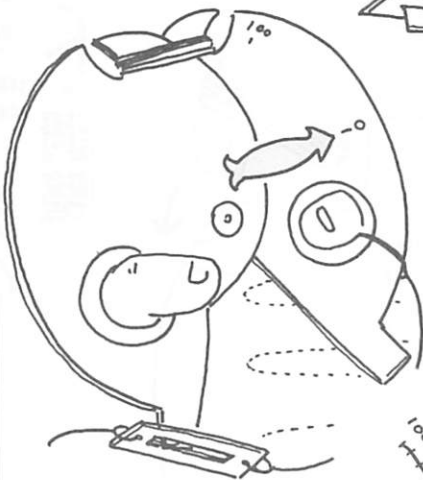
大掛かりな実験  
中絶された  
超常現象の謎

学研

5  
ゲージを作る



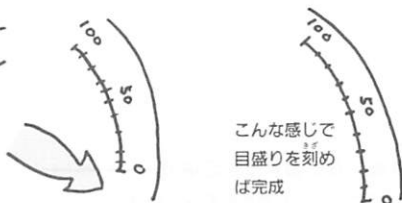
- ①自分の好きな形で指針を作る。
- ②ORセルファをセットし、指針が図のような位置にくるように貼る。そして、指針の先端のポイントを、100パーセントとする。



- ③固定具をはずしてORセルファを動作させ、指の力を抜いていく。完全に力を抜く少し手前で、指針が一時的に止まるポイントがある。力はほとんど入っていない。その位置を0パーセントとする。

- ④あとは、0から100の間を等分していけば、ゲージのできあがりだ。

⑤ORセルファから指を抜いたとき、指針がさらに少し動いて、ゲージの外を指すかどうかを確認する。この「遊び」が、ゲージを作るときのポイントだ。



あなたのご研究と経験で、その可能性は無限に広がっていくだろう。あなたの隠れた能力が最大限に広がっていくことを願って、本稿を終えることにしよう。

■おわりに  
以上ですすべての工程が終了し、あなただけのORセルファが完成したことになる。  
世界でたったひとつ、あなただけのORセルファは、あなたの隠れた能力と可能性を引き出す、スーパーマシンである。わずか数百グラムの器具ではあるが、あなたの内に眠った生命気力を取りだし、測定するすごいマシンなのだ。  
使い方などは、これまでさまざまな角度から説明してきたが、まだまだ開発の余地がある。もっとほかに、思いもよらない使い方が可能かもしれない。  
あなたのご研究と経験で、その可能性は無限に広がっていくだろう。あなたの隠れた能力が最大限に広がっていくことを願って、本稿を終えることにしよう。

●ORセルファは特許出願中です。本誌の読者とご家族にのみ製造使用を許諾しています。他人に譲ったり、他人を測定したりはできません。